



心理学・認知科学から見た変化

石井 敬子

(名古屋大学大学院情報学研究科)

ishiik@i.nagoya-u.ac.jp

<https://sites.google.com/view/ishiik/>

心理学: 欧米の「当たり前」が前提

- 心理学の知識: “Weird”の人々(参加者・研究者)による知見から成り立つ
 - 2003年～2007年における心理学のジャーナルの知見: そのうちの96%が、世界の人口のたった12%(主に欧米)を対象としたもの
 - 一般化していいのか?

自己高揚

- 自己を肯定的にとらえたり示そうとする行為のこと
- 自分の成功（例えば、テストでいい点をとった！）の理由として自分の能力を挙げ、高く評価する

結果をどう解釈するか？

- 皆さんが日本人を対象にこの実験をやり、自己高揚の知見が追試できないとしたら、どう考えるか？

結果をどう解釈するか？

- 欧米圏以外のデータは何を示唆するか？
 - たまたま欧米の研究者が多く、故に欧米人を対象とした実験が多い。→それらのサンプルに基づく結果が「一般的」かのように見える
 - 新たな仮説の可能性：生物種としてのヒトの普遍的・生得的な能力を前提としながらも、心の性質は、社会・文化環境に依存している可能性

文化心理学の考え方 (北山, 1998)

慣習と公の意味構造
日常的現実

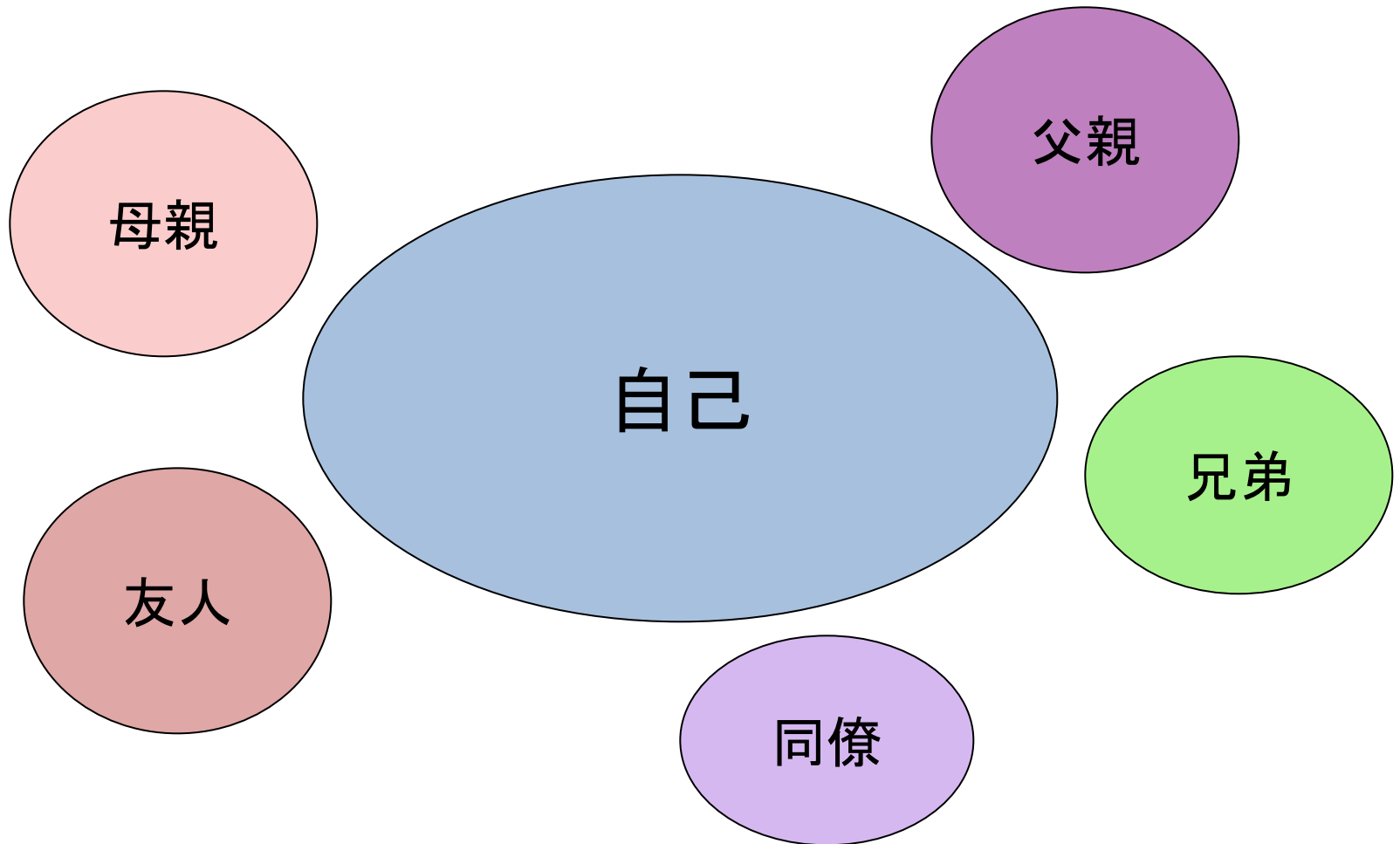
心のプロセスと構造

会話のSCRIPT
言語の用法
エチケット
子育ての習慣
教育制度
司法制度
経済システム

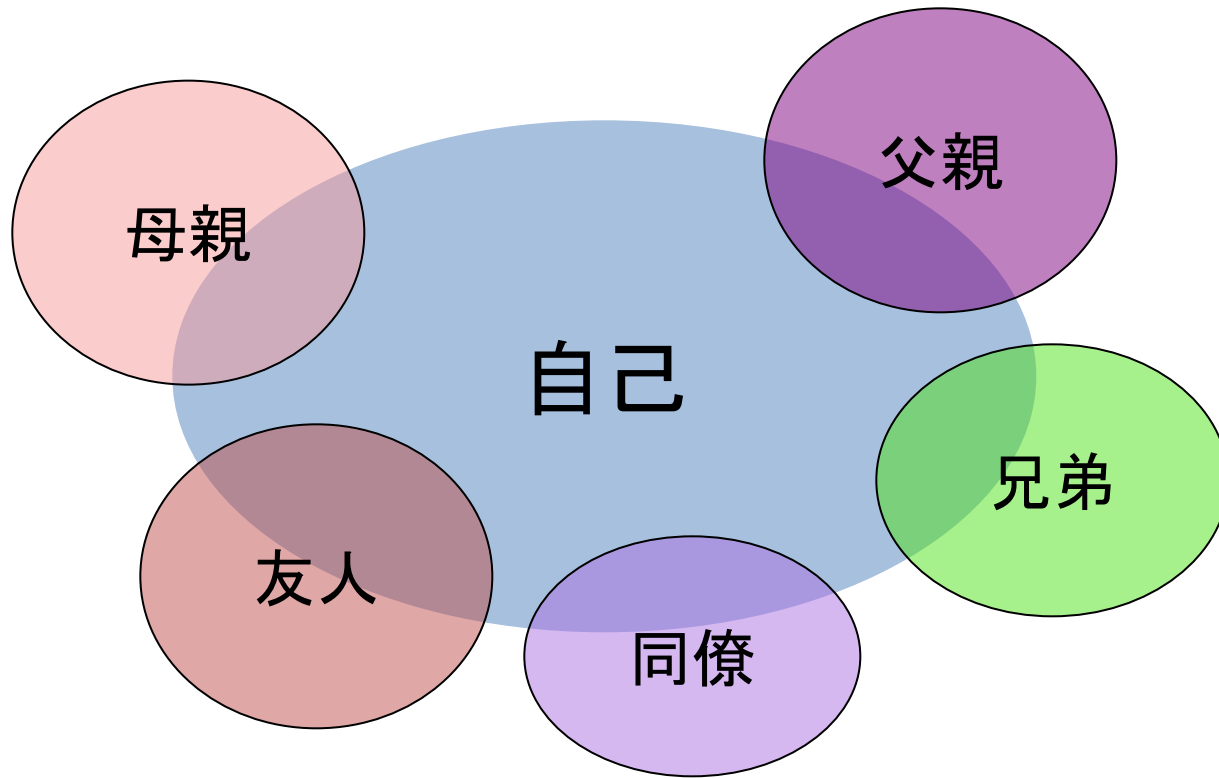
心の形成
→
相互構成
←
文化の維持と変容

社会的推論のバイアス
愛着のスタイル
自己評価のプロセス
自他の認識パターン
やる気の構造
意思決定の方略
感情のシステム

相互独立的自己觀



相互協調的自己觀



認知・知覚における文化差

Nisbett, Peng, Choi, & Norenzayan (2001)

西洋：分析的思考・注意

個人の自立を機軸に自然を理解してきた歴史的背景
→最も重要な対象を文脈から抜き出し、それに焦点をあてる分析的態度が顕著

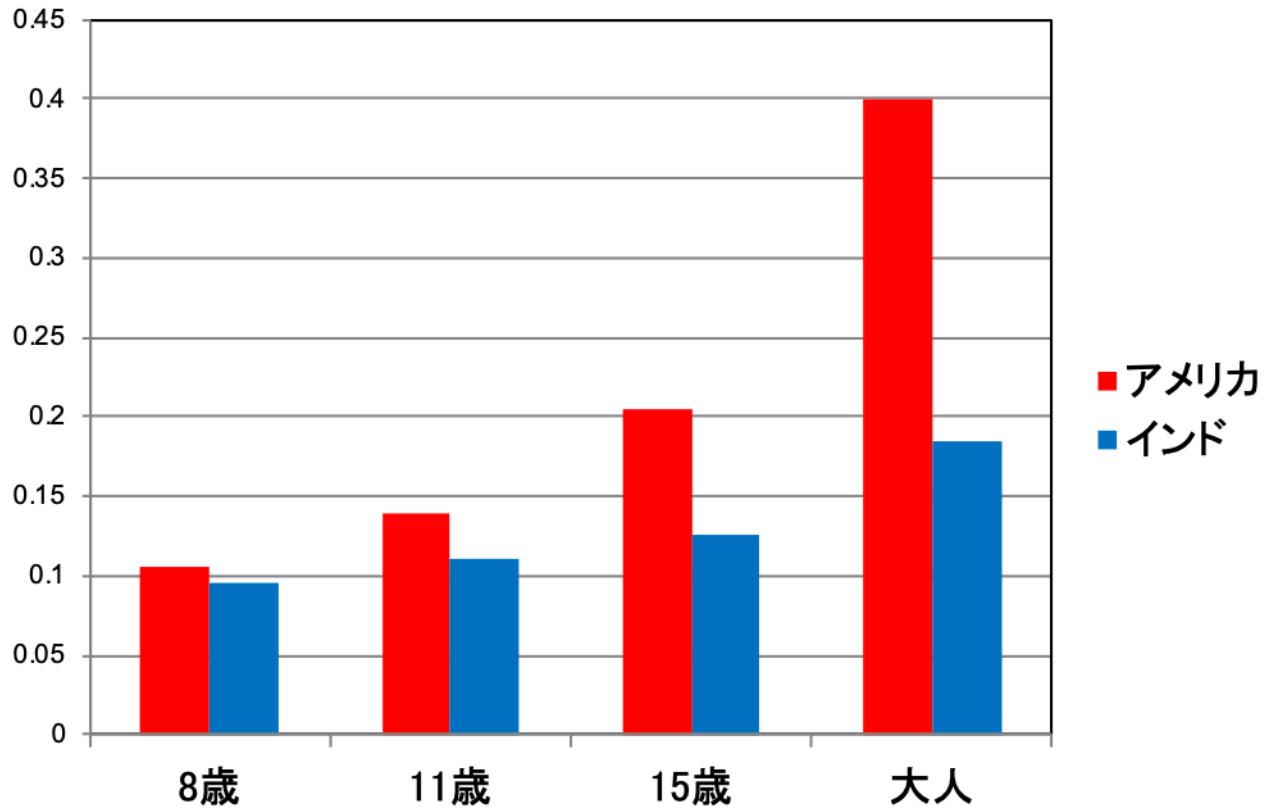
東洋：包括的思考・注意

個人と自然の調和を重視してきた歴史的背景→いかなる物も全体の中に埋め込まれたものであるとする包括的態度が顕著

原因帰属

Miller (1984): アメリカとインドにおける縦断研究

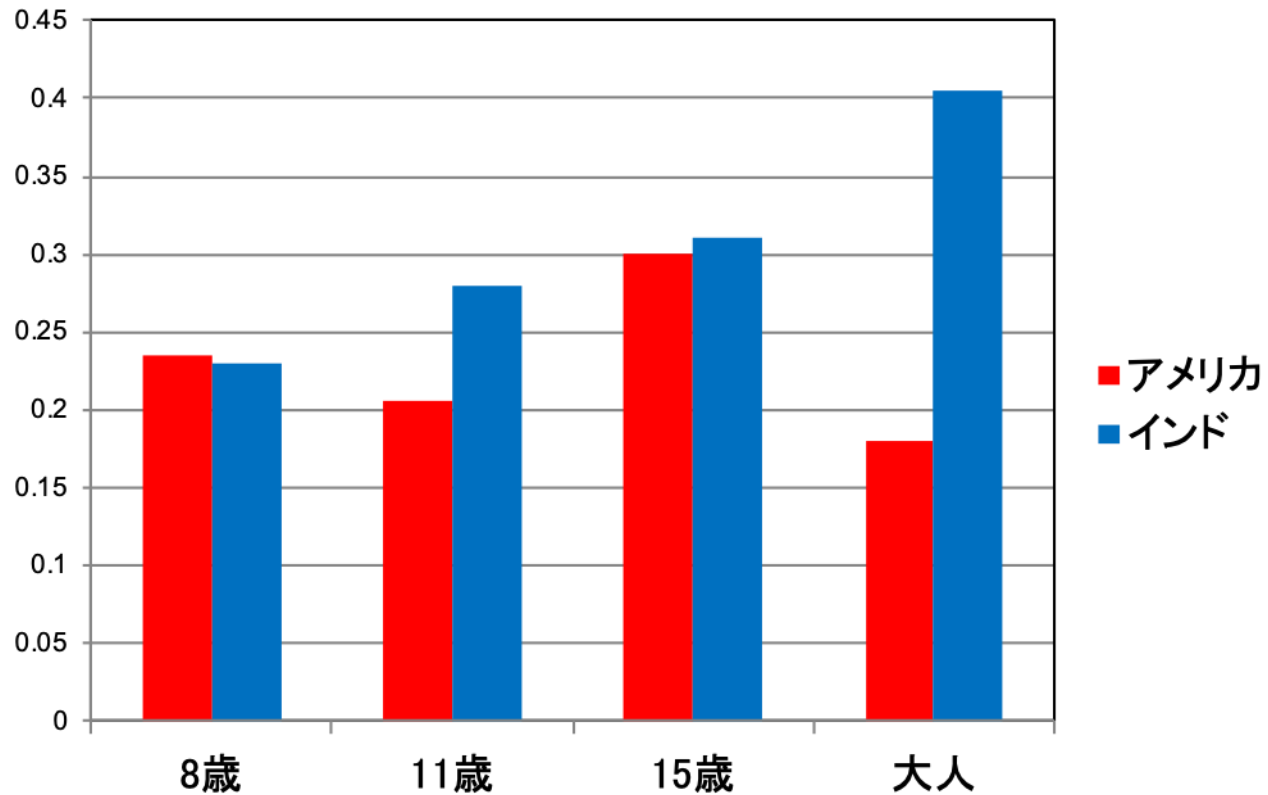
個人の特徴を挙げた割合



原因帰属

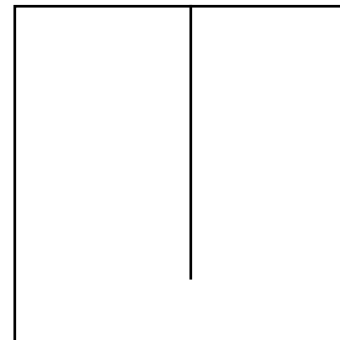
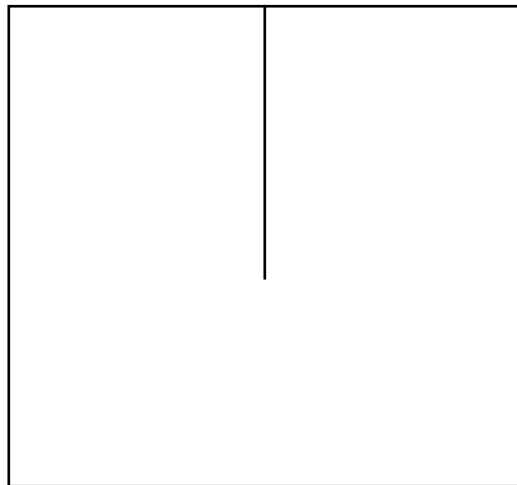
Miller (1984): アメリカとインドにおける縦断研究

個人を取り巻く環境の特徴を挙げた割合

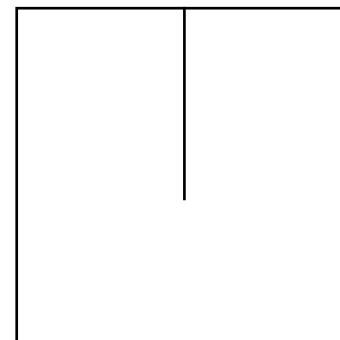
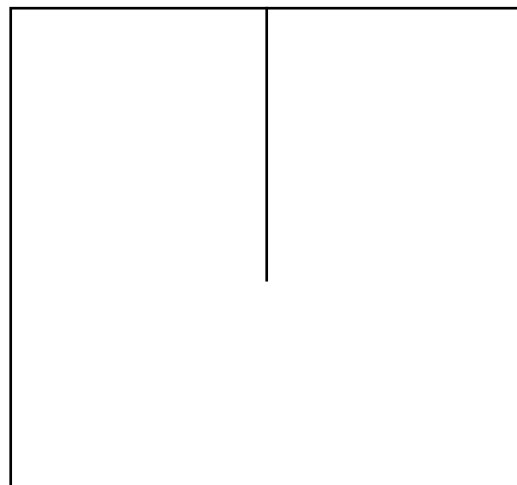


線と枠課題

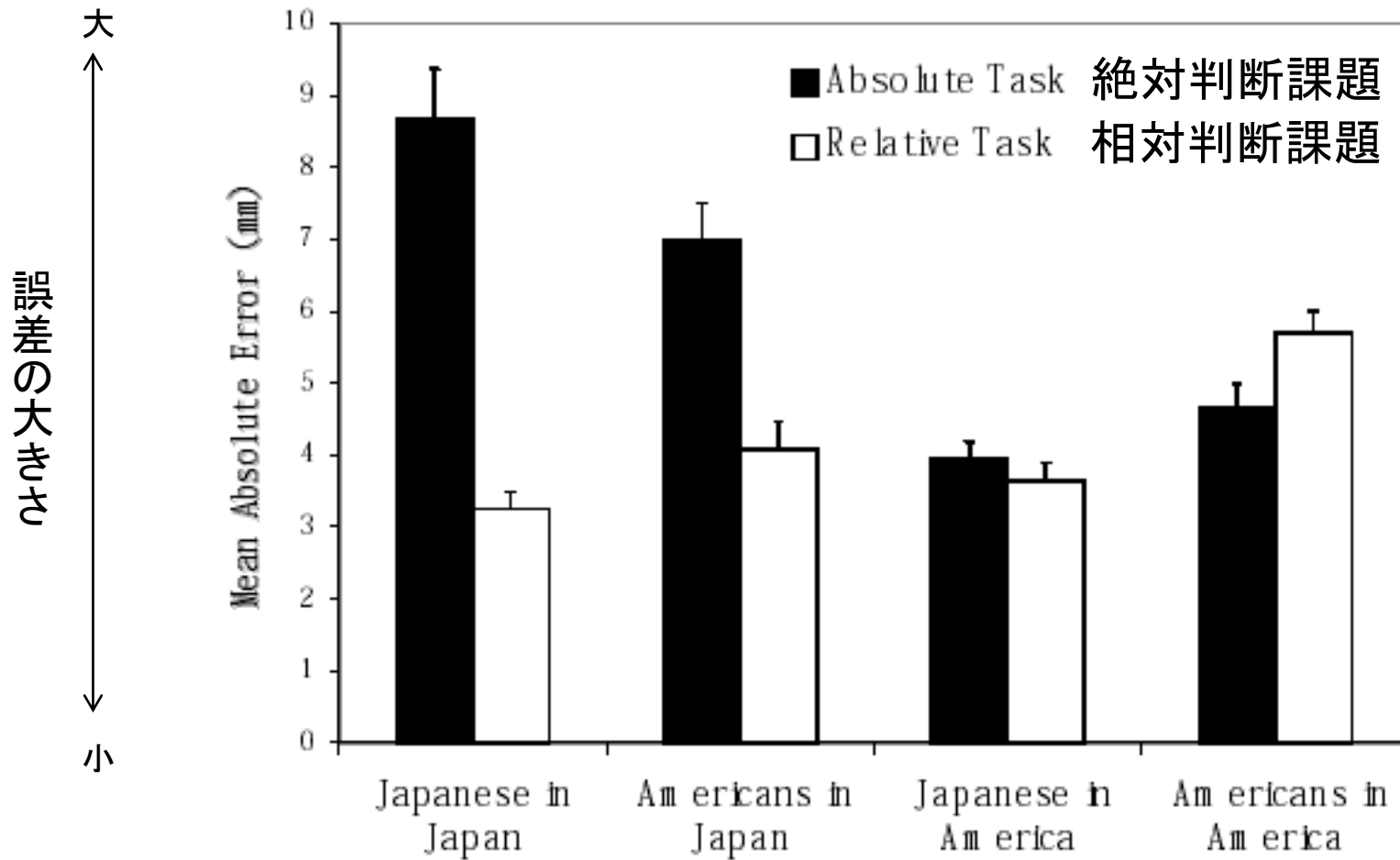
絶対判断



相対判断



周囲を重視したものの見方：単純な図形を用いた場合でも生じる



日本にいる日本人：相対判断が得意

アメリカにいるアメリカ人：絶対判断が得意

一旦まとめ

- 欧米の「当たり前」を一般化することの危うさ
- 心理学において文化比較することの意義
 - 心の性質と社会・文化環境との相互構成
 - 文化間比較
- 変化の諸相
 - 文化内比較
 - 発達
 - 時間軸

「自発的移住」仮説

北米文化：移民により形成

- ・16世紀、宗教的・経済的理由によるヨーロッパからの移住
- ・Wild West：西へ向けた開拓、インディアンを征服

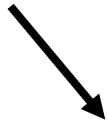


独立的自己の形成に影響

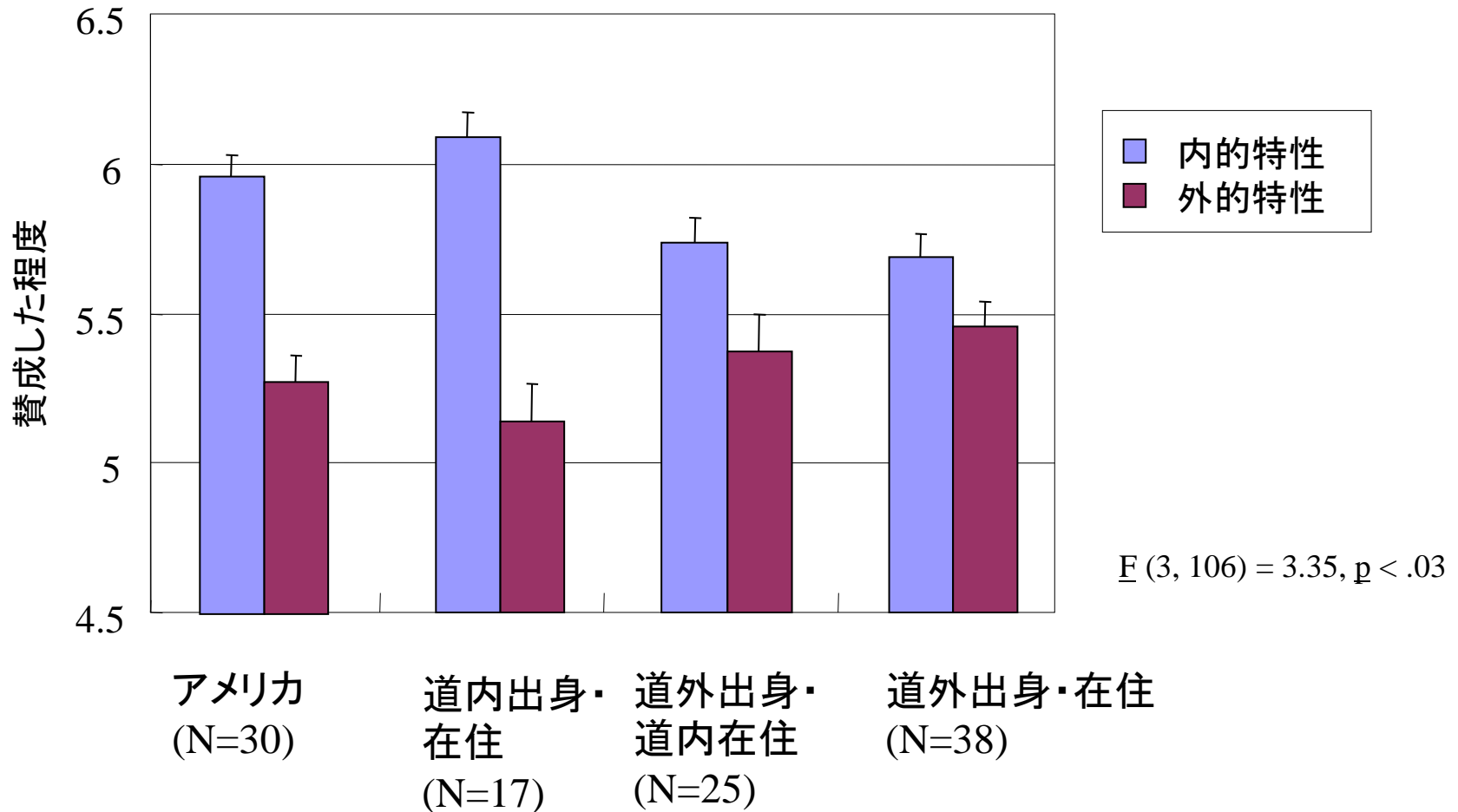
移住の選択：
デフォルトとして
各人の「独立性の高さ」

文化の信念体系としての
「フロンティア精神」

移住後の社会環境：
・関係性の乏しさ
・弱い政府権力 → 「頼りは自分自身」



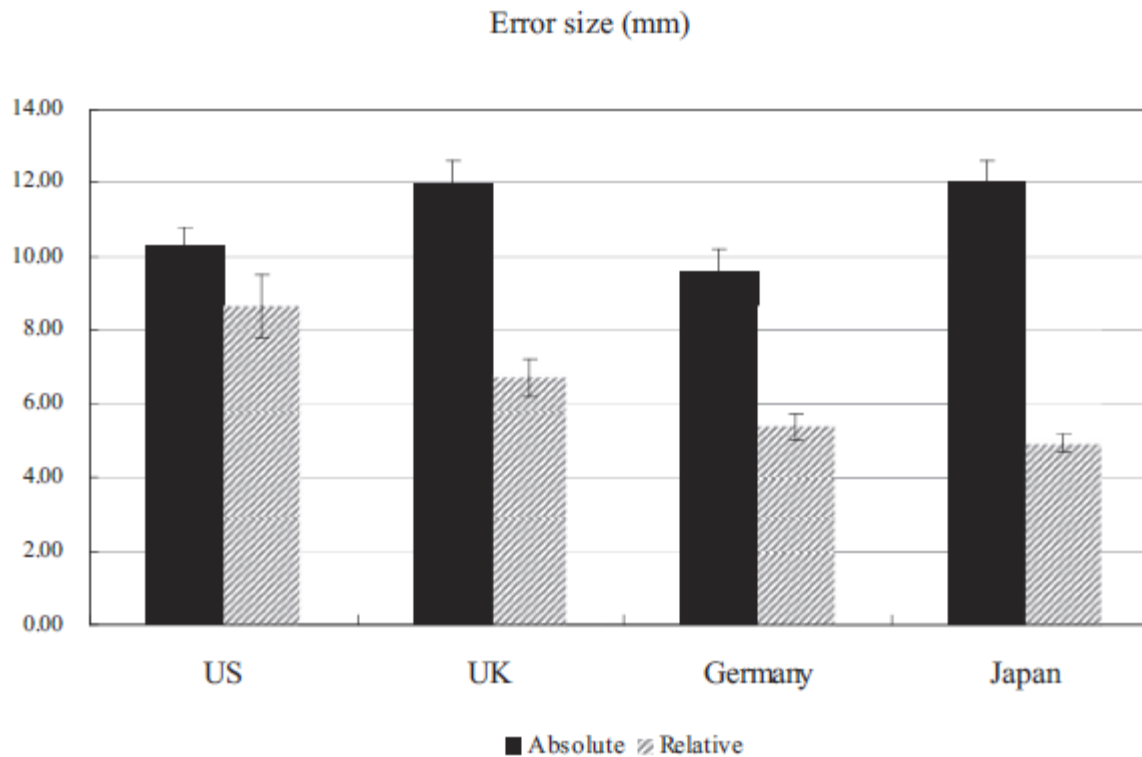
原因帰属における差異



Kitayama, Ishii et al. (2006)

自発的移住： アメリカとヨーロッパの比較

線と枠課題

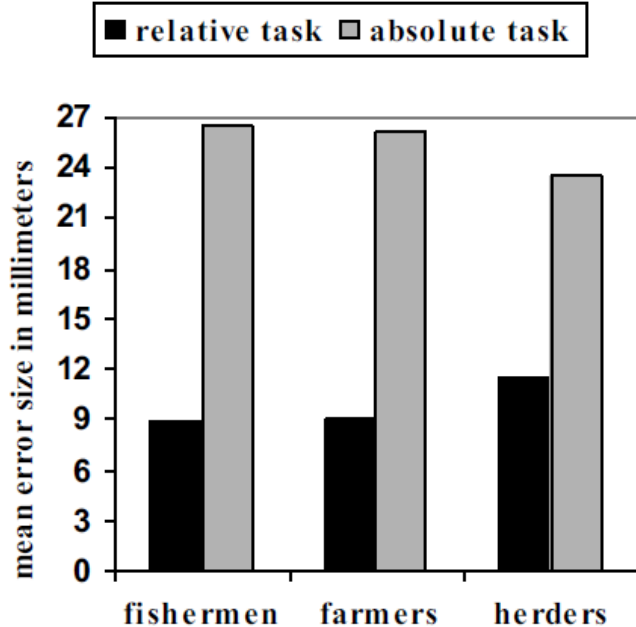


Kitayama et al. (2009) Figure 3 (page 244)

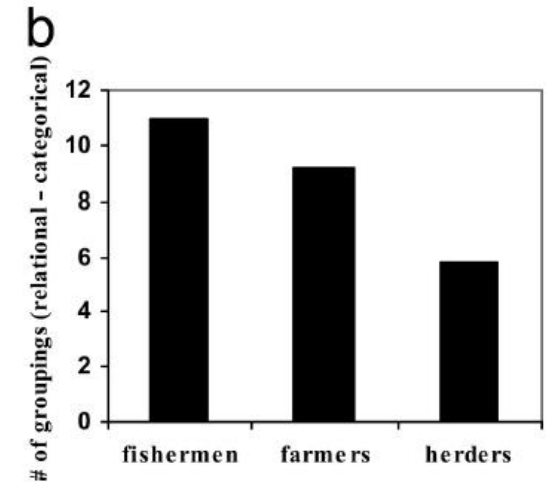
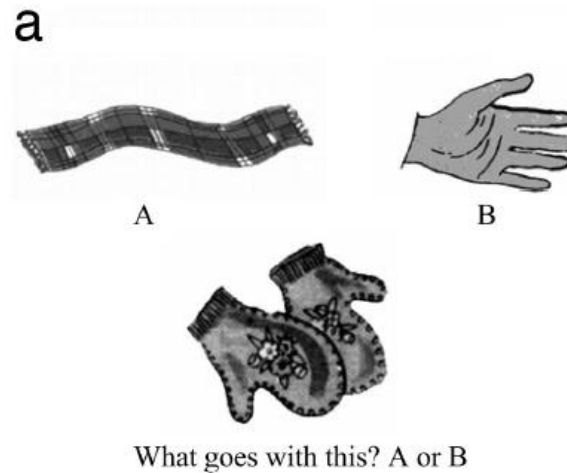
生業と認知スタイル

トルコ・黒海沿岸の漁民、農民、牧畜民の認知スタイルの比較

線と枠課題



カテゴリー課題



牧畜民は、農民や漁民と比べ、相対的に分析的な注意傾向

米 vs. 小麦: 中国における米作地域→包括的思考、低い離婚率

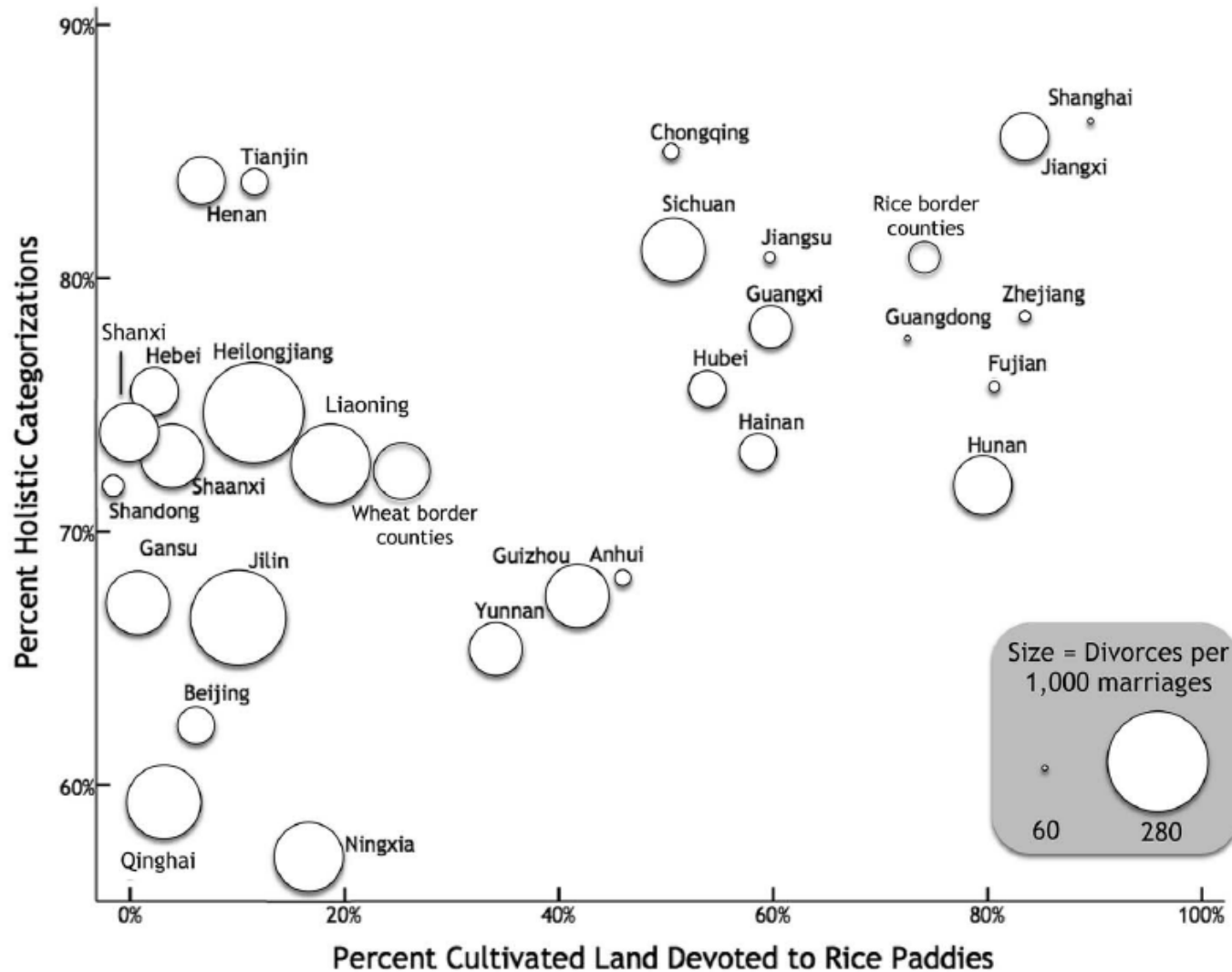
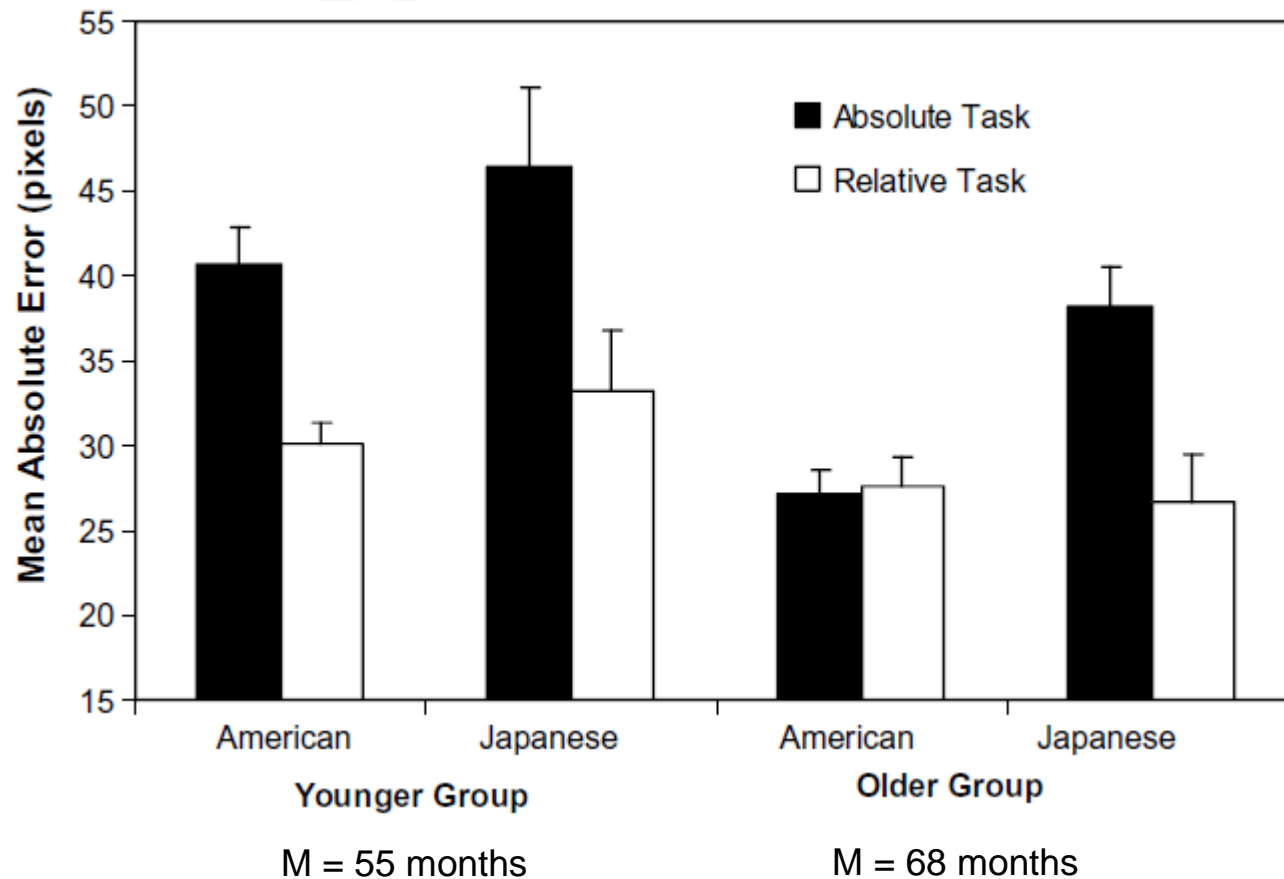


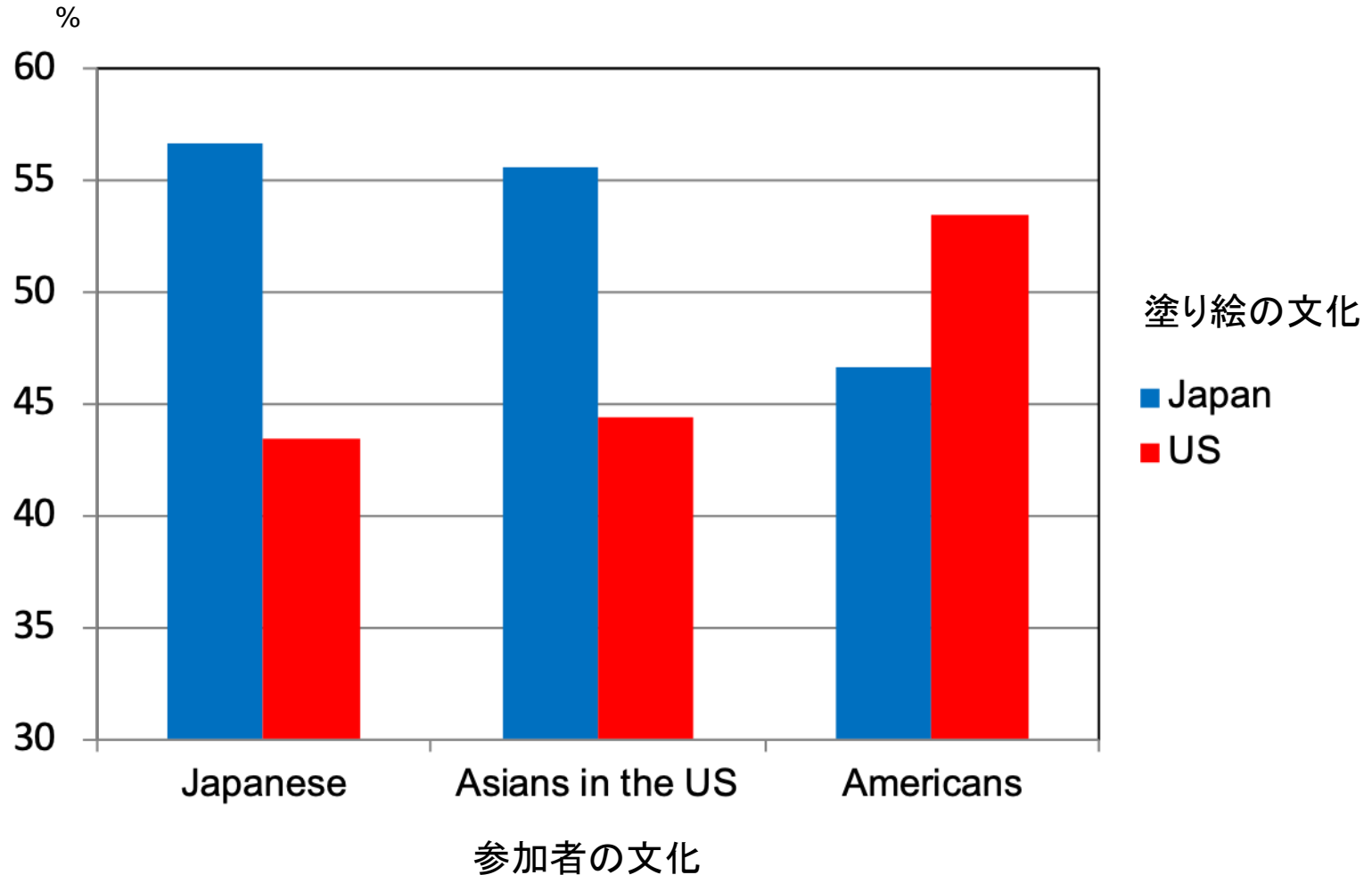
Fig. 2. Cultural thought style by percentage of cultivated area devoted to rice paddies. Each circle represents a province. Circle size represents divorce and controls for effect of GDP. To illustrate cultural differences along the rice-wheat border, circles represent the rice and wheat border counties.

文化差はいつごろから生じるのか

線と枠課題



塗り絵に対する好みの判断



自文化の塗り絵（特にアメリカ人はユニークな塗り絵、日本人は調和的な塗り絵）をより好む

Ishii, Miyamoto, Rule & Toriyama (2014)

子どもの塗り絵に対する親のフィードバック: 文化的価値を反映

Table 1. Japanese and Canadian Child Rearers' Likelihood Rankings for Statements on Children's Colorings in Study 3b.

	Mean ranking (SD)		F	p	r
	Japan (n = 103)	Canada (n = 56)			
Uniqueness-related statement					
Express himself or herself freely	3.54 (1.67)	2.71 (1.46)	12.81	<.001	.27
Use colors that are distinct from each other	4.48 (1.34)	4.41 (1.38)	0.18	.67	.03
Make the coloring stand out	5.04 (1.51)	4.43 (1.46)	10.77	<.005	.25
Harmony-related statement					
Use colors in a harmonious manner	4.11 (1.34)	3.94 (1.34)	1.05	.31	.08
Color along the frame border or stay inside the lines	4.07 (1.61)	4.50 (1.95)	3.50	.06	.15
Use soft colors or pastels	4.87 (1.40)	5.12 (1.48)	2.06	.15	.11
General statement					
Compliment the coloring without encouraging anything	2.29 (1.95)	3.14 (2.18)	7.47	<.01	.21

独自性に関するもの (e.g., 自由に表現しなさい): カナダ > 日本

調和に関するもの (e.g., 縁からはみ出さないように塗りなさい): 日本 > カナダ

アメリカの都市化が進み、1920年以降、割合が逆転

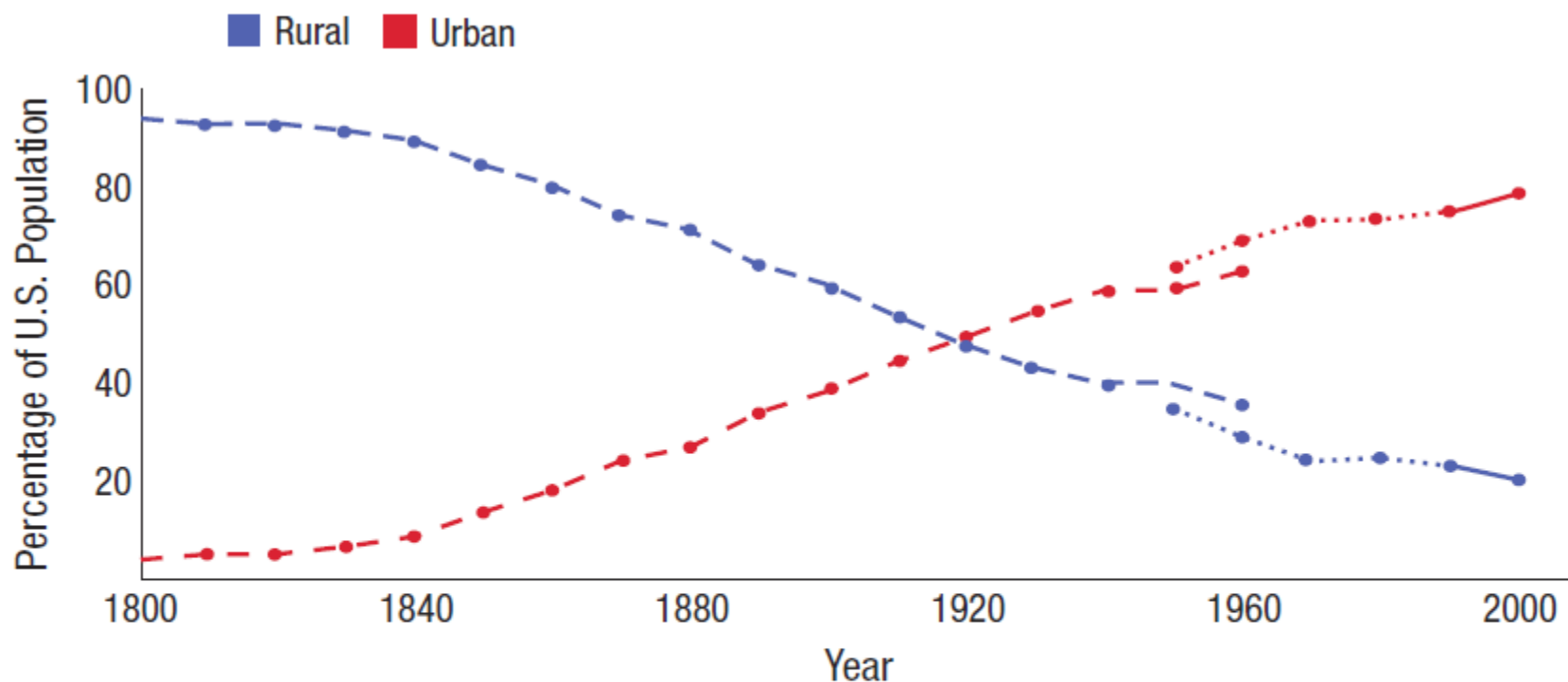


Fig. 1. Percentage of U.S. population living in rural and urban areas from the years 1800 to 2000. Data were drawn from the following sources—1800–1980: U.S. Census Bureau (2004); 1990: U.S. Census Bureau (1992); and 2000: U.S. Census Bureau (2004). The definition of *urban population* changed over the years, and two different definitions were both used in 1950 and 1960, so there are double data points for those years (for details, see Ecological Analysis in the text).

都市化の進行とともに、“obliged”の頻度が減少

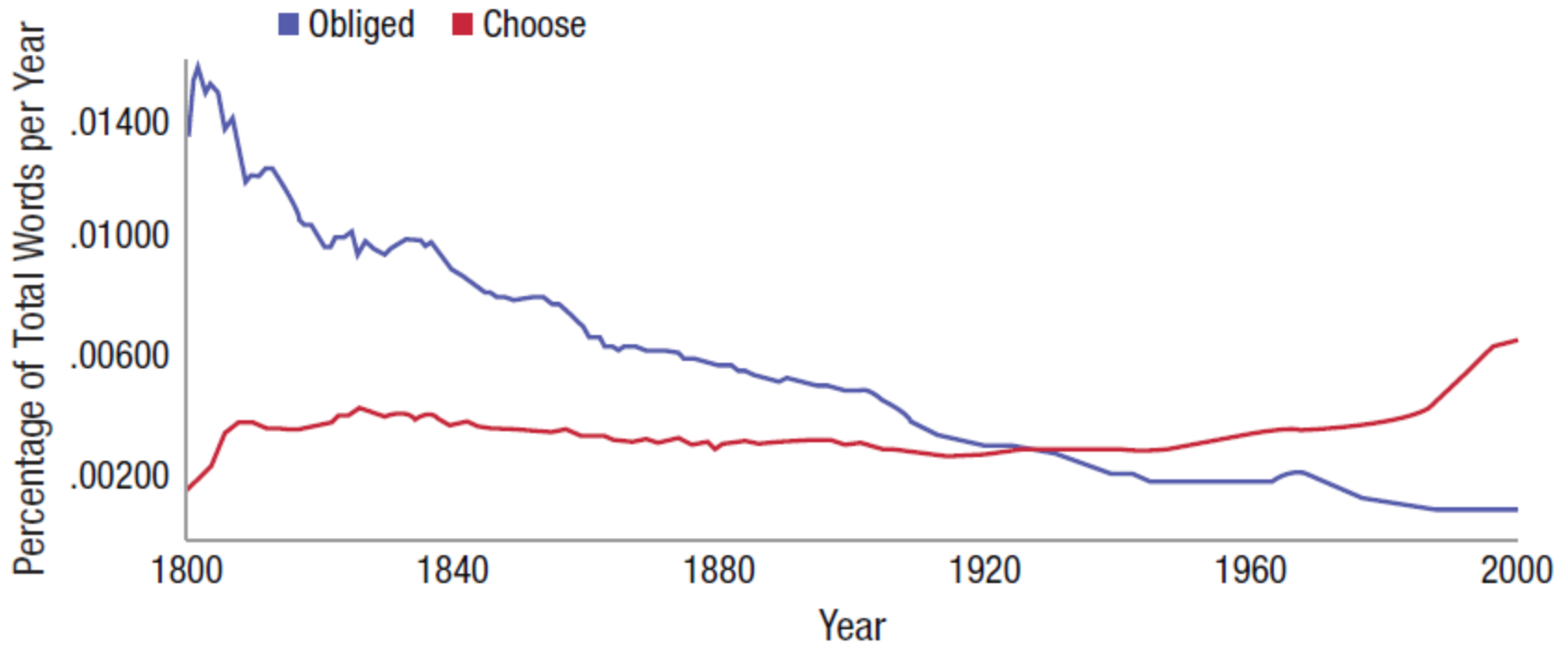


Fig. 2. Frequency of the words “obliged” and “choose” in the Google corpus of American English books from the years 1800 to 2000. The graph was made with the Google Books Ngram Viewer (Michel et al., 2011), with a smoothing of 3.

日本の個人主義化:限定的(人口動態統計に顕著)

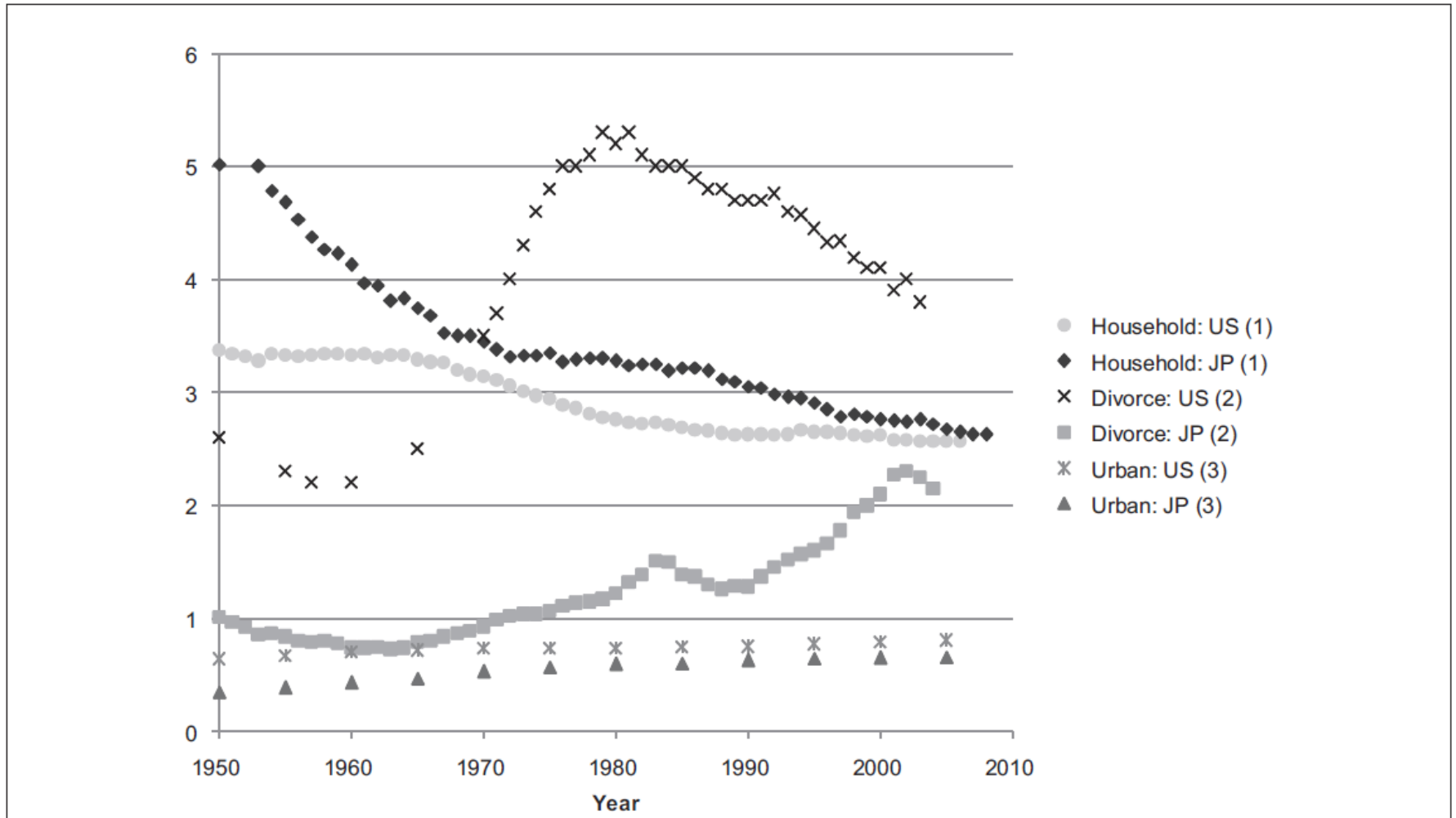


Figure 2. Changes in divorce rate, household size, and urban population

日本の個人主義化：限定的（価値観はあまり変化しない）

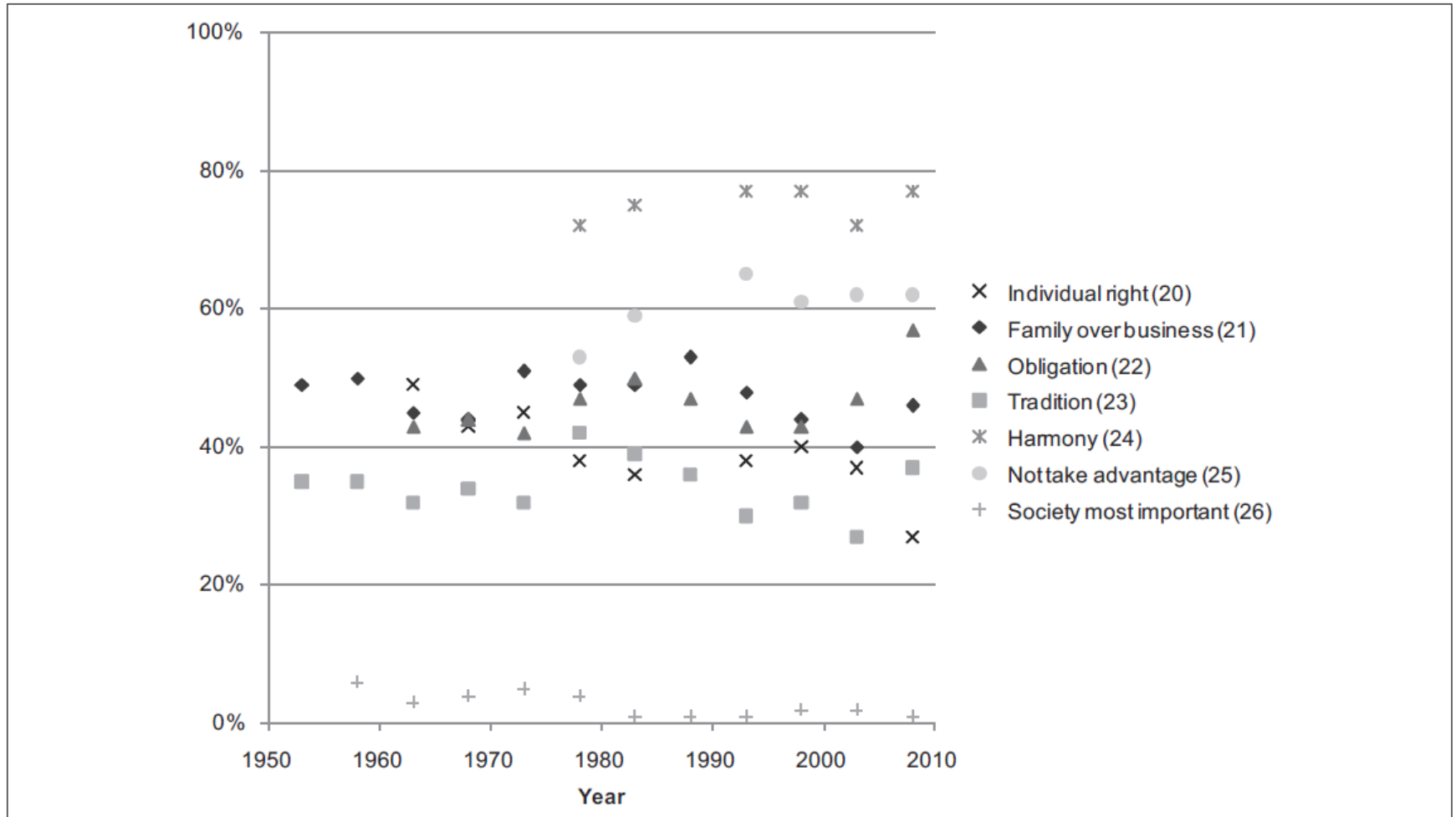


Figure 8. Indices from Japanese national surveys
Numbers inside the parentheses correspond to numbers in Table I.

まとめ

- 心の性質：欧米の「当たり前」→社会・文化環境に依存した可能性
- 洋の東西における心の性質の差異
- 変化の諸相
 - 自発的移住、生業などの影響
 - 発達：社会化が文化に合った心の性質を促進
 - 時間軸：「限定的な」日本の個人主義化